

学長の業績評価（令和6年度）

国立大学法人富山大学学長選考・監察会議は、「国立大学法人富山大学学長の業績評価に関する申合せ」等を踏まえ、以下の考え方を基本として、令和6年度学長の業績評価を実施したのでここに公表する。

1. 学長の業績評価は、大学の使命達成とさらなる発展に向けて、学長の適切な業務遂行に資するために実施する。
2. 評価の対象は、大学全体の実績に対する「全体評価」及び学長の「個人評価」とし、以下の4項目について実施する。
 - (1) 中期目標期間の大学の業務実績を通じた評価
 - (2) 大学の機能強化の取組と重点支援を通じた評価
 - (3) 大学改革等に向けた取組に係る評価
 - (4) 大学ガバナンスとリーダーシップに係る評価
3. 「全体評価」である(1)については、富山大学の中期目標・中期計画の進捗状況に係る令和5年度自己点検・評価報告書等を活用し、(2)については、令和7年度国立大学法人運営費交付金の配分に係る評価をもって、本年度の評価とする。

また、「個人評価」である(3)、(4)については、前年度を踏まえた令和6年度の評価とする。
4. 中間評価は、学長の任期前半の2年間（令和5年度及び令和6年度）における、上記4項目の総合評価とする

令和7年3月11日

国立大学法人富山大学学長選考・監察会議

令和6年度学長の業績評価

(1) 中期目標期間の大学の業務実績を通した評価

【評価方法】

法人の中期目標期間に掲げる業務運営や財務内容等に関する目標計画の進捗に対し、大学運営の責任者である学長をもって評価する。評価は、大学の自己点検・評価による「中期目標・中期計画の進捗状況に係る令和5年度自己点検・評価」を踏まえた評価とする。

【概要】

○項目別評価

1) 教育研究の質の向上に関する目標

(1) 社会との共創に関する目標

大学の研究の強み・特色であり地域の中核的産業分野でもあるカーボンニュートラル、ヘルスケア・創薬、軽金属の領域を中心に、地域の産業・文化の発展への貢献、知的財産の発掘、産学官連携活動の推進など、中期計画の達成に向けて取組を進めている。特に、単独及び共同の特許出願件数については、学内セミナーを開催し教職員の意識啓発を行ったことにより、特許出願件数の増加につながっている。また、共同研究・受託研究の受入額についても増加した。以上から、「順調」と評価する。

(2) 教育に関する目標

社会ニーズに対応した教育研究組織の改編・整備、課題設定・解決力を身に付けさせる枠組みの整備、教養教育の推進、社会の多様な分野で活躍できる博士課程学生の育成、数理データサイエンス AI 教育、リカレント教育の質の向上など、中期計画の達成に向けて取組を進めている。特に、教養教育の推進では、習熟度別クラス編成の導入等により TOEIC-IP の平均得点の上昇が昨年度に引き続き見られるなど成果を上げている。

また、異分野融合による共著論文数及びその共著論文数の全論文数（大学院博士課程）に占める割合について、昨年度（令和4年度）実績より大幅に増加している。以上から、「順調」と評価する。

(3) 研究に関する目標

社会の課題解決・イノベーションに寄与する研究の推進、未病研究や特定臨床研究を含む社会実装を目指した東西医薬学融合研究の推進など、中期計画の達成に向けて取組を進めている。特に、重点研究分野・技術が実施する共同研究・受託研究の件数、論文掲載数が増加していることが評価される。また、各学系における若手教員比率も順調に向上している。以上から、「順調」と評価する。

(4) その他重要事項に関する目標

地域の医療連携と高度医療の強化、医療人材の育成、医師主導治験の強化など、中期計画の達成に向けて取組を進めており、令和5年度に IBD センター（炎症性腸疾患の治療、管理を専門とする組織）及び呼吸器・胸郭センターを設置し、医療機能の集約・強化を行った。また、令和6年9月にジェンダーセンターが保険施設に認定され、日本海側の医療機関としては初めての認定施設となった。一方、臨床研修医や専攻医の採用者数及び医療従事者の時間外労働の縮減時間については目標値を若干下回ったが、すでに対応はされており、引き続き目標達成に向けて取り組まれない。進捗に遅れが見られる指標が一部あることから、「おおむね順調」と評価する。

2) 業務運営の改善及び効率化に関する目標

学長ガバナンスの強靱化に向けた体制整備、内部統制システムの継続的な改善、設備による教育研究支援、施設マネジメントの推進など、中期計画の達成に向けて取組を進めており、令和5年度は「富山大学キャンパスマスタープラン Action Plan 2023～2026」を策定し、同プランに基づき13件の修繕事業を実施しており、「順調」と評価する。

3) 財務内容の改善に関する目標

財源の多元化・安定的な財務基盤の確立、学内資源配分の最適化、附属病院の経営基盤の確保など、中期計画の達成に向けて取組を進めており、「順調」と評価する。

4) 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標

エビデンスベースの法人経営、ステークホルダーへの情報発信と定期的な対話など、中期計画の達成に向けて取組を進めており、「順調」と評価する。

5) その他業務運営に関する重要事項

効果的・効率的な業務の実施、デジタルキャンパスを推進する上での情報セキュリティ対策の実施など、中期計画の達成に向けて取組を進めており、「順調」と評価する。

【評価】

大学の自己点検・評価による「中期目標・中期計画の進捗状況に係る令和5年度自己点検・評価」を踏まえ、「順調」と評価する。

特に、学長のリーダーシップの下、富山大学が強みとしている重点研究分野・技術（カーボンニュートラル、ヘルスケア・創薬、軽金属、データサイエンス、文化財保護等）を中心に予算の重点配分による支援を行った結果、科学技術振興機構（JST）共創の場形成支援プログラム（COI-NEXT）令和6年度本格型昇格プロジェクトに採択された。これは、令和4年度に同プログラムの「地域共創分野・育成型」に採択され、「循環経済型イノベーション都市」の実現に向け、産学官民の幅広いステークホルダーとの対話を重ねてきた活動が評価され、「本格型」への昇格に繋がったと思われる。

今後も、各計画・指標等の達成状況の自己点検・評価に継続して取り組んでいただきたい。

(2) 大学の機能強化の取組と重点支援を通じた評価

【評価方法】

大学の機能強化に向けた取組とその重点支援に対し、大学運営の責任者である学長をもって評価する。評価は、文部科学省による令和7年度国立大学法人運営費交付金に係る「成果を中心とする実績状況に基づく配分」の結果を踏まえた評価とする。

○「成果を中心とする実績状況に基づく配分」について

国立大学及び大学共同利用機関におけるマネジメント改革の推進や、教育・研究の更なる質の向上を図るために導入された、「成果を中心とする実績状況に基づく配分」による資源配分。

配分は、その規模や組織体制の観点から分類されたグループ内の順位による配分率に基づき行われる。
(配分率 125%～75%)

本学は、グループ①[主として、地域に貢献する取組とともに、専門分野の特性に配慮しつつ、強み・特色のある分野で世界・全国的な教育研究を推進する取組を中核とする国立大学のうち、附属病院を有する国立大学：28大学]に分類されている。

【概要】

○本学の評価結果

総配分額 1,001,656 千円（配分基礎額 1,054,721 千円 差額▲53,065 千円（▲5.0%））

卒業・修了者の進学・就職の状況

・ 学士課程

偏差値 52.894、配分率 100%（配分基礎額 17,877 千円、配分額 17,877 千円）、順位 13 位

・ 修士課程、博士課程（前期）、専門職学位課程

偏差値 54.222、配分率 95%（配分基礎額 23,836 千円、配分額 22,645 千円）、順位 16 位

・ 博士課程（後期）、医歯学、薬学課程

偏差値 40.604、配分率 75%（配分基礎額 29,795 千円、配分額 22,347 千円）、順位 28 位

博士号授与率

偏差値 50.554、配分率 105%（配分基礎額 71,507 千円、配分額 75,083 千円）、順位 12 位

大学教育改革に向けた取組の実施状況

26 点/26 点中 配分率 125%（配分基礎額 59,589 千円、配分額 74,487 千円）、順位 1 位

若手研究者比率

偏差値 44.238、配分率 80%（配分基礎額 137,055 千円、配分額 109,644 千円）、順位 24 位

新規採用者に占める若手研究者比率

偏差値 44.308、配分率 80%（配分基礎額 47,671 千円、配分額 38,137 千円）、順位 24 位

常勤教員当たり研究業績数

偏差値 47.483、配分率 115%（配分基礎額 59,589 千円、配分額 68,528 千円）、順位 7 位

常勤教員当たり研究業績数の伸び率

偏差値 50.464、配分率 100%（配分基礎額 29,795 千円、配分額 29,795 千円）、順位 13 位

常勤教員当たり研究業績数の伸び幅

偏差値 50.284、配分率 100%（配分基礎額 29,795 千円、配分額 29,795 千円）、順位 13 位

常勤教員当たり科研費獲得額・件数

偏差値 45.659、配分率 100%（配分基礎額 59,589 千円、配分額 59,589 千円）、順位 13 位

常勤教員当たり科研費獲得額・件数の伸び率

偏差値 56.848、配分率 115%（配分基礎額 29,795 千円、配分額 34,265 千円）、順位 7 位

常勤教員当たり科研費獲得額・件数の伸び幅

偏差値 57.122、配分率 115%（配分基礎額 29,795 千円、配分額 34,265 千円）、順位 6 位

常勤教員当たり受託・共同研究等受入額

偏差値 44.637、配分率 85%（配分基礎額 59,589 千円、配分額 50,651 千円）、順位 22 位

常勤教員当たり受託・共同研究等受入額の伸び率

偏差値 48.481、配分率 100%（配分基礎額 29,795 千円、配分額 29,795 千円）、順位 13 位

常勤教員当たり受託・共同研究等受入額の伸び幅

偏差値 44.526、配分率 90%（配分基礎額 29,795 千円、配分額 26,816 千円）、順位 19 位

人事給与マネジメント改革状況

評点 6.4、配分率 110%（配分基礎額 47,671 千円、配分額 52,439 千円）、順位 11 位

会計マネジメント等改革状況

評点 7.0、配分率 120%（配分基礎額 41,713 千円、配分額 50,056 千円）、順位 3 位

ダイバーシティ環境醸成の状況

偏差値 44.815、配分率 75%（配分基礎額 41,713 千円、配分額 31,285 千円）、順位 27 位

寄附金等の経営資金獲得実績

常勤教員当たり獲得実績額 1,285,650 円、配分率 80%（配分基礎額 89,384 千円、
配分額 71,508 千円）、順位 25 位

寄附金等の経営資金獲得実績の伸び率

偏差値 40.615、配分率 80%（配分基礎額 44,692 千円、配分額 35,754 千円）、順位 23 位

寄附金等の経営資金獲得実績の伸び幅

偏差値 40.979、配分率 80%（配分基礎額 44,692 千円、配分額 35,754 千円）、順位 23 位

【評価】

常勤教員当たり研究業績数は順調であり、常勤教員当たり科研費獲得額・件数及びその伸び率、伸び幅は、順位は若干低下したが伸びている。また、大学教育改革に向けた取組については、前年度に引き続き 1 位と高い評価を維持している。

一方、一部の指標では再配分率の低下や順位の低下が見られる。中でも、博士課程における卒業・修了者の就職・進学率やダイバーシティの指標については低い評価となっており、また、寄附金等の経営資金獲得実績の伸び率や伸び幅は順位が大きく低下していることから、改善に向けた全学的な施策が求められる。

大学の更なる機能強化に向け、引き続き取り組んでいただきたい。

（３）大学改革等に向けた取組に係る評価

【評価方法】

学長ビジョン「Saito Vision 2023」（令和５年７月２５日策定）が、本学に求められている改革を適切に捉えていると判断し、教育・研究・社会貢献・大学運営に対する「Action Plan」を基本に、大学改革等に向けた取組を評価する。

【概要】

○教育

高度デジタルエキスパート人材の育成では、現代社会に必要なデータやデジタル技術を使いこなす力を養成するため、「富山大学数理・データサイエンス・AI 教育プログラム」を中核として、初年次の教養教育から学部専門教育に至るまで体系的なデータサイエンス教育を行っている。令和６年度は、経済学部と理学部において学部改組を行い、それぞれ１学科制に移行するとともに、数理・データサイエンスに関するコース／プログラムを開設するなど全学を挙げてデータサイエンス教育に取り組んでいる。

大学院教育では、令和４年４月に修士課程、令和６年４月に博士課程・博士後期課程を全面改組し、分野間の連携・融合を図り、新たな価値を創出する体制を構築した。また、一定の研究業績を有する社会人を対象とした博士後期課程を最短１年で修了、課程博士号を取得する制度を令和７年４月入学から開始することとし、学び直しの支援を含め大学院の活性化を目指している。

○研究

科学技術振興機構（JST）共創の場形成支援プログラム（COI-NEXT）令和６年度本格型昇格プロジェクトとして、富山大学を中心とする「富山循環経済モデル創成に向けた産学官民共創拠点」が採択され、「産」、「学」、「官」及び「民」の協働で、富山ブランドの高付加価値リサイクルアルミの100%循環を実現し、地域産業の活性化や新産業創出に取り組んでいる。また、令和６年２月に全学体制によるカーボンニュートラル産業創生研究センターを設置し、研究開発、社会実装の促進を行い、研究成果を教育に還元してグリーン人材の育成に取り組んでいる。

○社会貢献

富山県・富山市と連携した「とやまデータサイエンス推進連絡協議会」において、令和６年度よりDXハイスクールへの支援の取組を開始するなど、学校教育推進、社会人教育推進、産学官連携事業推進の観点から地域におけるデータサイエンス・DX教育の普及に取り組んでいる。

また、令和６年能登半島地震の対応として、避難者の受入、被災学生・志願者への支援、附属病院DMAT等の派遣、学生ボランティア派遣等、被災された地域の方及び学生への支援を行うとともに、被災地での復旧支援を行った。

○大学運営

国立大学法人におけるマネジメント改革の一環として、学長ガバナンスの強靱化に向けた体制整備、財源の多元化・安定的な財務基盤の確立、カーボンニュートラルの実現に向けた取組の推進等に取り組んでいる。また、令和５年度に、大学の施設等への命名権を事業者に付与し、事業者から得る対価を活用して教育研究環境の向上を図るネーミングライツ事業を開始するなど、多様な財源の獲得に向けて取り組んでいる。

【評価】

将来の予測が困難な激動の時代において、大学には変化に対応した革新が求められる。学長ビジョン「Saito Vision 2023」は、富山大学の特性を明確に捉え、1期目の任期中に解決されなかった諸課題について引き続き真摯な姿勢で着実に改善を図り、2期目の運営方針を明確に示していると判断できる。また、ビジョンを具体化する「Action Plan」は具体性・戦略性があり、目標を高い達成率で実現していると評価できる。

（４）大学ガバナンスとリーダーシップに係る評価

【評価方法】

富山大学の使命は、地域と世界に向かって開かれた大学として、人文社会科学や医薬理工学を総合した特色ある国際水準の教育及び研究を行い、人間尊重の精神を基本に高い使命感と創造力のある人材を育成し、地域と国際社会に貢献することである。学長は、その使命を果たすために大学法人を統治し、リーダーシップを発揮しているかどうかを評価する。

【概要】

○ガバナンス体制の構築

学長は、国立大学法人法、国立大学法人ガバナンス・コード等を踏まえ、理事、副学長、学部等の部長、経営協議会外部委員等を選任・配置し、自らの意思決定や、業務執行をサポートする体制を整備している。各理事は、学長の運営方針に基づき必要な事項等に対する検討を深め、学長の迅速・的確な意思決定を支えている。また、第４期中期目標に「学長ガバナンスの強靱化に向けた体制整備」を掲げ、この目標を達成するために「学長ガバナンスの強靱化を図るため、学長の大学経営に関する補佐体制を整備する。」ことを計画し、令和６年度は１２名の外部有識者を学長特別補佐、学長特命補佐に登用し、専門的知見に基づく指導・助言により法人経営力の強化に貢献した。

○ガバナンスの発揮

学長は、大学法人としての経営の透明性、情報の開示、法律・大学規則・社会規範等に係るコンプライアンス遵守に努めている。さらに、“社会のための大学”として、国内外の合意や社会通念に率先的に取り組むことで経営機能を高め、大学法人としてのガバナンスを発揮している。

○リーダーシップの発揮

学長は、昨年度２期目を迎えるにあたり「Saito Vision 2023」を新たに策定し、公表している。これにより、１期目に解決されなかった諸課題を着実に改善するとともに富山大学の強みとなる教育研究の分野を明確化し、具体的な取組計画を学内外に示した上で取組を実施している。

学長のリーダーシップは「“みんなで創ろう！”おもしろい大学」をスローガンに掲げ、「未来への扉を開く授業、社会に革新を与える研究をみんなで創りあげる」、「超スマート社会「Society5.0」に対応した人材を育成し、グローバル化する社会の持続的発展に寄与する」、「「地（知）を楽しみ、知（地）を活かす」拠点として地域産業の発展とウェルビーイングの向上に貢献する」のこれら３つのビジョンに力強く発揮している。

【評価】

学長は大学の使命を実現すべく“おもしろい大学”をスローガンとする「Saito Vision 2023」を策定し、学生を含む大学構成員の一体感を引き出すなど、リーダーシップをもって、社会の率先に向けて様々な大学ガバナンスを発揮しており、評価される。

学長の業績に係る中間評価

－ 令和5・6年度 －

国立大学法人富山大学学長選考・監察会議は、「国立大学法人富山大学学長の業績評価に関する申合せ」に基づき、学長任期前半（令和5・6年度）の業績を評価した。

（１）中期目標期間の大学の業務実績を通した評価

【趣旨】

法人の中期目標期間に掲げる業務運営や財務内容等に関する目標計画の進捗に対し、大学運営の責任者である学長をもって評価する。評価は、大学の自己点検・評価による「中期目標・中期計画の進捗状況に係る令和5年度自己点検・評価」を踏まえた評価とする。

【評価】

大学の自己点検・評価による「中期目標・中期計画の進捗状況に係る令和5年度自己点検・評価」を踏まえ、順調であると評価する。特に、学長のリーダーシップの下、富山大学が強みとしている重点研究分野・技術（カーボンニュートラル、ヘルスケア・創薬、軽金属、データサイエンス、文化財保存等）を中心に予算の重点配分による支援を行った結果、科学技術振興機構（JST）共創の場形成支援プログラム（COI-NEXT）令和6年度本格型昇格プロジェクトに採択された。これは、令和4年度に同プログラムの「地域共創分野・育成型」に採択され、「循環経済型イノベーション都市」の実現に向け、産学官民の幅広いステークホルダーとの対話を重ねてきた活動が認められ昇格につながったと評価できる。

（２）大学の機能強化の取組と重点支援を通した評価

【趣旨】

大学の機能強化に向けた取組とその重点支援に対し、大学運営の責任者である学長をもって評価する。評価は、文部科学省による令和7年度国立大学法人運営費交付金に係る「成果を中心とする実績状況に基づく配分」の結果を踏まえた評価とする。

【評価】

常勤教員当たり研究業績数は順調であり、常勤教員当たり科研費獲得額・件数及びその伸び率、伸び幅は、順位は若干低下したが伸びている。また、大学教育改革に向けた取組については、前年度に引き続き1位と高い評価を維持している。

一方、一部の指標では再配分率の低下や順位の低下が見られる。中でも、博士課程における卒業・修了者の就職・進学率やダイバーシティの指標については低い評価となっており、また、寄附金等の経営資金獲得実績の伸び率や伸び幅は順位が大きく低下していることから、改善に向けた全学的な施策が求められる。

大学の更なる機能強化に向け、引き続き取り組んでいただきたい。

（３）大学改革等に向けた取組に係る評価

【趣旨】

学長ビジョン「Saito Vision 2023」（令和5年7月25日策定）が、本学に求められている改革を適切に捉えていると判断し、教育・研究・社会貢献・大学運営に対する「Action Plan」を基本に、大学改革等に向けた取組を評価する。

【評価】

将来の予測が困難な激動の時代において、大学には変化に対応した革新が求められる。学長ビジョン「Saito Vision 2023」は、本学の特性を明確に捉え、1期目の任期中に解決されなかった諸課題について引き続き真摯な姿勢で着実に改善を図り、2期目の運営方針を明確に示していると判断できる。また、ビジョンを具体化する「Action Plan」は具体性・戦略性があり、目標を高い達成率で実現していると評価できる。

（４）大学ガバナンスとリーダーシップに係る評価**【趣旨】**

富山大学の使命は、地域と世界に向かって開かれた大学として、人文社会科学や医薬理工学を総合した特色ある国際水準の教育及び研究を行い、人間尊重の精神を基本に高い使命感と創造力のある人材を育成し、地域と国際社会に貢献することである。学長は、その使命を果たすために大学法人を統治し、リーダーシップを発揮しているかどうかを評価する。

【評価】

学長は本学の使命を実現すべく“おもしろい大学”をスローガンとする「Saito Vision 2023」を策定し、学生を含む大学構成員の一体感を引き出すなど、リーダーシップをもって、社会の率先に向けて様々な大学ガバナンスを発揮しており、評価される。